

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|--|---|-------------|---------------|--------------|
| 障害の理解 I Understanding Disabilities I | | 1年 | 前期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 | (介護福祉士養成課程必修) | 特になし |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 新井文子 | 福祉棟2階 | 初回授業にて説明する。 | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 障害について、その概念や理念および医学的側面からの心身機能に関する基礎的知識を学び、生活障害を理解する。それらを感じ覚器障害・肢体不自由の体験から立体的に理解する。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①障害の概念を説明できるようにする。 ②障害の分類と根拠法および各障害の基礎知識を修得できるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 講義科目であるが、演習も併用する。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| 各障害の基礎知識を修得し、生活障害を具体的に説明することができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス（シラバスにそって）、障害とは何か | | | |
| 第2回目 | 障害の基礎的理解① 障害の分類と根拠法、統計的実態と動向 | | | |
| 第3回目 | 障害の基礎的理解② 障害の概念（ICIDHとICF） | | | |
| 第4回目 | 障害の基礎的理解③ 障害福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、QOL） | | | |
| 第5回目 | 障害の基礎的理解④ 障害福祉の基本理念（自立・自律生活の理念、国際障害者年の理念等） | | | |
| 第6回目 | 障害の医学的側面の基礎知識① 身体障害 種類と原因および特性等 | | | |

| | | |
|--|--|---|
| 第7回目 | 障害の医学的側面の基礎知識② 身体障害 感覚器障害 | |
| 第8回目 | 身体障害と生活障害① 感覚器障害の体験① 【演習】 | |
| 第9回目 | 身体障害と生活障害② 感覚器障害の体験② 【演習】 (レポート1 提出：第10回目) | |
| 第10回目 | 障害の医学的側面の基礎知識③ 身体障害 肢体不自由 | |
| 第11回目 | 身体障害と生活障害③ 肢体不自由の体験 【演習】 (レポート2 提出：第12回目) | |
| 第12回目 | 障害の医学的側面の基礎知識④ 精神障害 種類と原因および特性等 | |
| 第13回目 | 障害の医学的側面の基礎知識⑤ 知的障害 種類と原因および特性等 | |
| 第14回目 | 障害の医学的側面の基礎知識⑥ 発達障害 種類と原因および特性等 | |
| 第15回目 | 障害の医学的側面の基礎知識⑦ 高次脳機能障害、難病 種類と原因および特性等、まとめ | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 20% | テキスト・配布資料等を活用し自主的にメモしている。 |
| レポート | 20% | 1・2：演習の振り返り S：演習内容を踏まえ、障害による不自由さを具体的に記述している。各10% (1・2共通) |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | 60% | 第16回目に実施。介護福祉士国家試験に準じた選択式の試験である。 |
| 発表内容 (態度含む) | | |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| 教科書 新・介護福祉士養成講座13 第4版 「障害の理解」 中央法規出版 | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| 新聞記事やニュース等から障害に関する情報を得るようにして、専門用語の理解に努めてほしい。 | | |